

2025年度 大学入学共通テスト 数学 I A(本試験) 分析

試験時間70分

難易度	出題分量	出題傾向
変化なし	変化なし	変更あり
文章量と問題量が多いという点以外は、複雑な計算などなく、誘導も丁寧であるので比較的解きやすかったであろう。	昨年より、やや文章量とマークする問題は増えたが、計算量が少ない問題がそれなりにあったため、大きくは変わらない。	昨年までの選択問題から、今年は4題必答となった。三角比表を利用した問題がなく、外れ値・仮説検定・期待値といった新たな内容が出題された。
<p>総評</p> <p>新課程となり初のテストであったが、以前と同様に誘導は丁寧であり、計算量もあまり多くなく解きやすい問題であった。ただし、文章量が多いことや外れ値・仮説検定・期待値などの新しい内容、見慣れない図形、確率の設定などにやや戸惑いを覚えた生徒がいたと思われる。</p>		

大問別分析

大問	出題分野・テーマ	配点	設問別分析
第1問	[1]数と式 [2]図形と計量	30点	<p>[1]2次方程式の解を題材に、因数分解および解を求める問題。最後の設問に必要・十分条件の内容が問われていたが、計算量も少なく指示された通りに解けば手早く解き終わる内容であった。</p> <p>[2]図が与えられ誘導も丁寧であり解きやすく感じる。後半に大小関係で少し戸惑うこともあるかもしれないが、正弦定理・余弦定理を適切に用いれば特に難しくはない内容であった。</p>
第2問	[1]2次関数 [2]データの分析	30点	<p>[1]3つの噴水を題材に放物線の式を決定させる内容で、与えられた条件から式の設定を間違えなければ、複雑な計算をすることもなく解くことのできる内容であった。</p> <p>[2]外国人と日本人の宿泊数という「インバウンド」をネタとするデータについて、正誤問題・外れ値・分散や共分散・仮説検定についての内容であった。計算量もほとんどなく、手間のかかる読み取りは少なく取り組みやすかったであろう。</p>

第3問	図形の性質 空間図形	20点	五面体を素材に、交点の存在する面や相似な図形に着目、方べきの定理なども利用して辺の長さを求めていく。最後の問は、平面や直線とのなす角を考える内容であったが、やりづらいつ感じる生徒が多かったと思われる。
第4問	場合の数・確率 ゲームの期待値	20点	設定された確率を利用して期待値求めることで、そのゲームに参加する料金の設定が妥当であるかどうかを考えさせる内容。起こり得る場合が少ないため期待値も求めやすく、きちんと内容が読み取れていれば解きやすい内容であった。

1・2年生へのワンポイントアドバイス

新課程ということで昨年までにはない内容も追加され、幅広く学習しておく必要があるが昨年に続いて決して難易度は高くない。したがって、まずやってほしいことは、教科書に戻り、きちんと理解しその上で問題集などを利用して定番問題の演習をしておこう。また、教科書を読みこむことで長い問題文に慣れることも大事である。そのようにして基礎学力を定着させ、時期を見て共通テストの予想問題などでしっかり練習を積みたい。